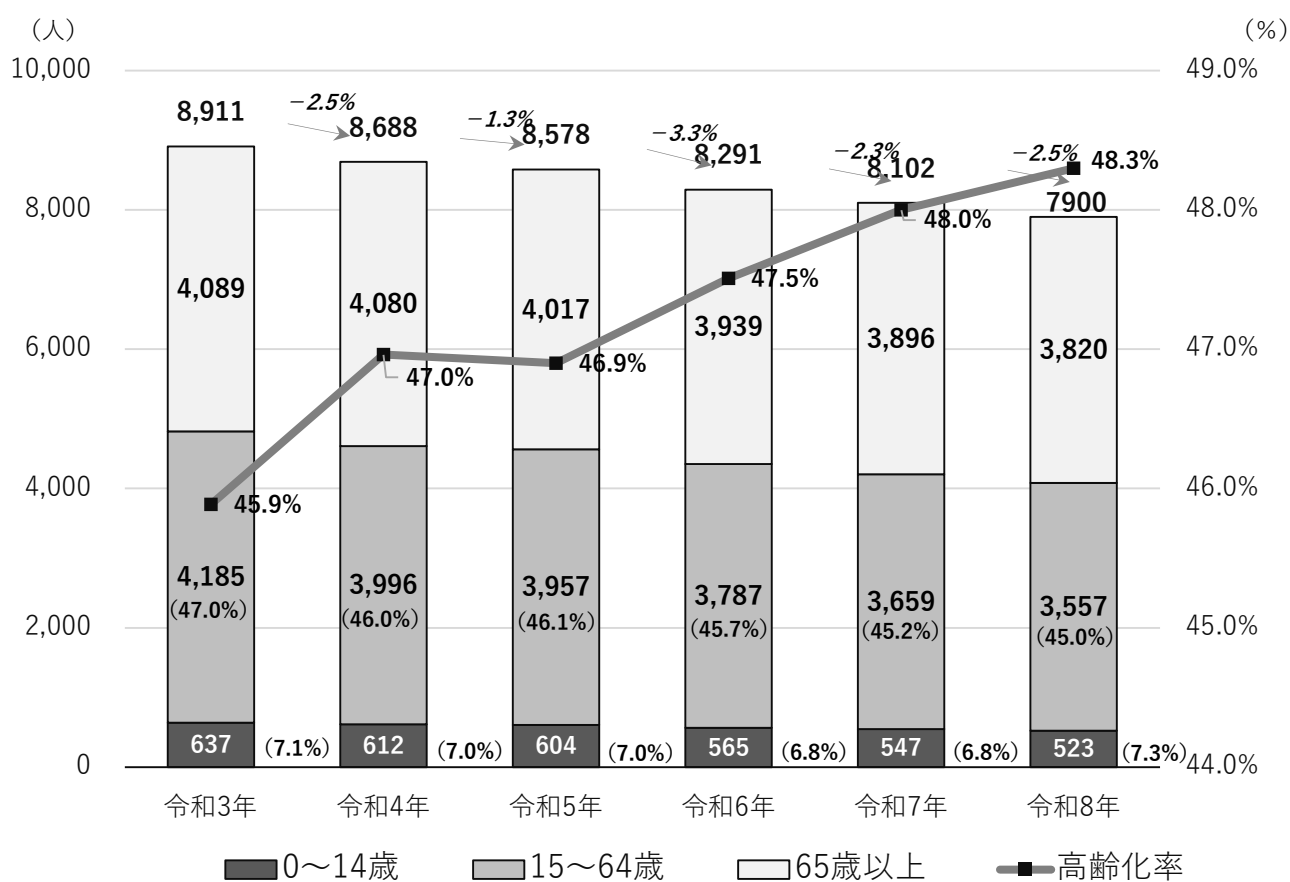


令和8年度海陽町学校再編計画 住民説明会資料

Ⅰ 海陽町の人口推移について

①年齢別人口について

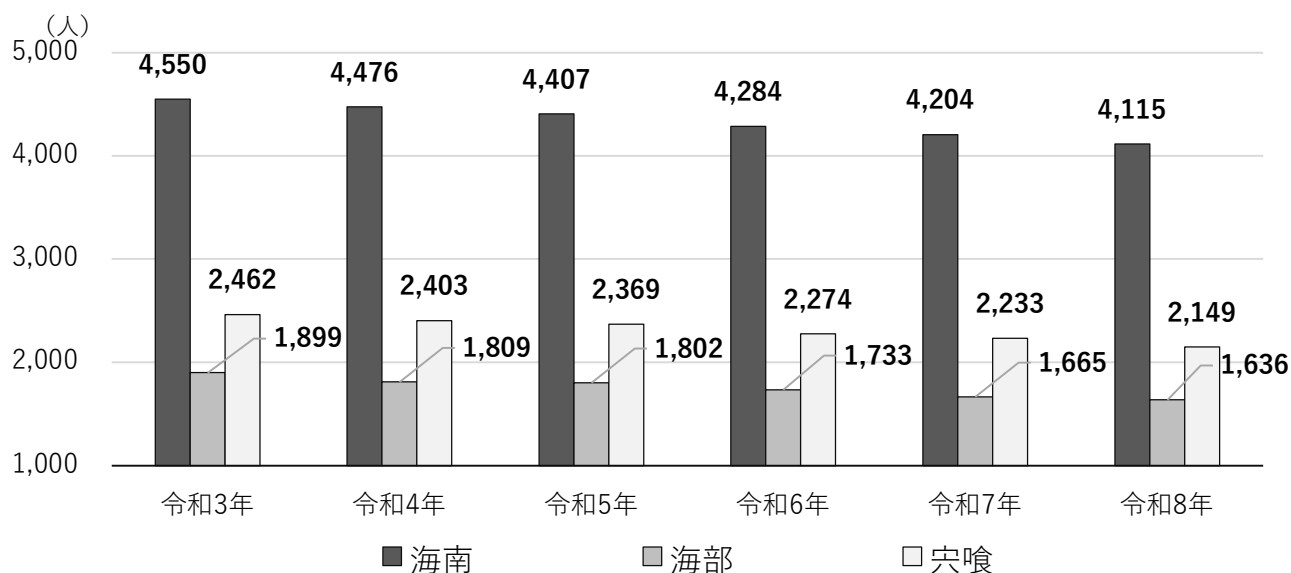
海陽町の人口推移をみると、令和3年から令和8年にかけて毎年2%前後減少しており、5年で1,011人減少しています。年齢3区分別にみると、いずれの年齢区分も令和3年から減少を続けています。また、高齢化率は増加傾向にあり、5年で3.4%増加しています。



各年3月末時点

②地区別人口について

地区別の人口推移をみると、いずれの地区も令和3年から令和8年にかけて減少を続けており、5年間の減少数は海南地区で445人、海部地区で263人、穴喰地区で313人となっています。地区別の人口比率は大きく変動はありませんが、海南地区の比率が5年で1.0%とわずかに増加傾向にあります。



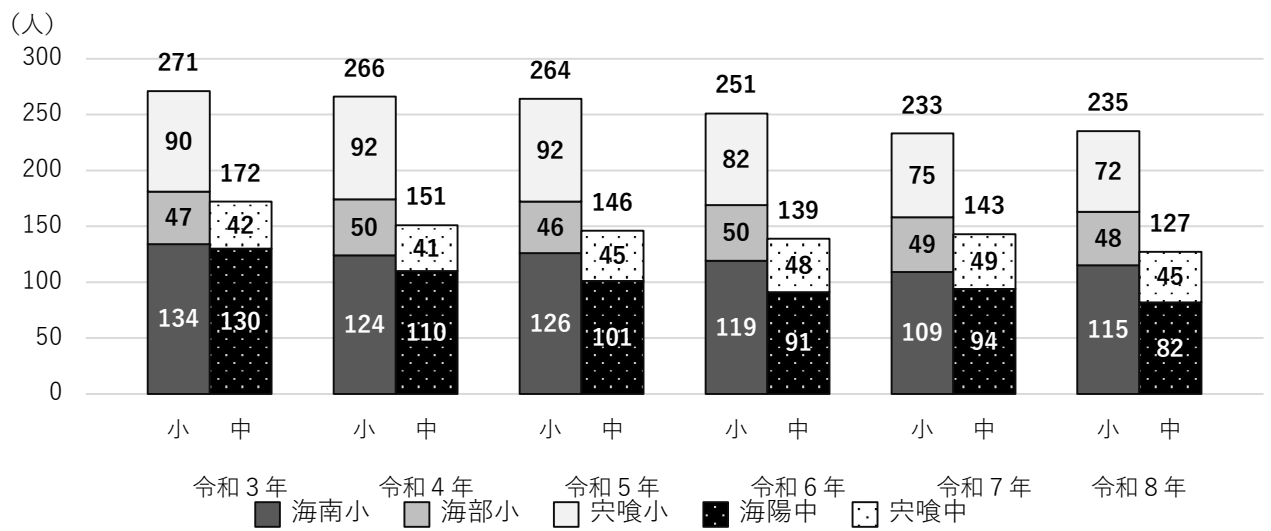
	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
海南	51.1%	51.5%	51.4%	51.7%	51.8%	52.1%
海部	21.3%	20.8%	21.0%	20.9%	20.6%	20.7%
穴喰	27.6%	27.7%	27.6%	27.4%	27.6%	27.2%

各年3月末時点

③小学校の児童、中学校の生徒数について

<小学校の児童、中学校の生徒数の推移>

小中学校の児童・生徒数の推移をみると、児童数・生徒数はともに減少傾向にあり、令和3年から令和8年にかけて小学校の児童数は36人、中学校の生徒数は45人減少しています。学校別には、海部小と穴喰中は横ばいとなっていますが、その他の3校は減少しています。

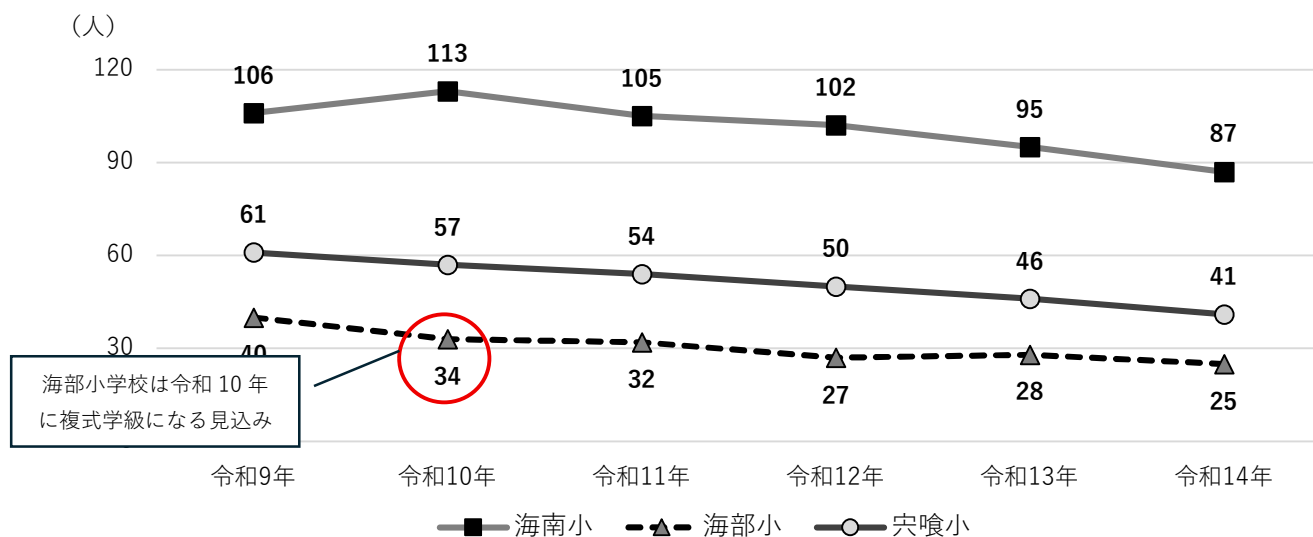


各年 5 月 1 日時点

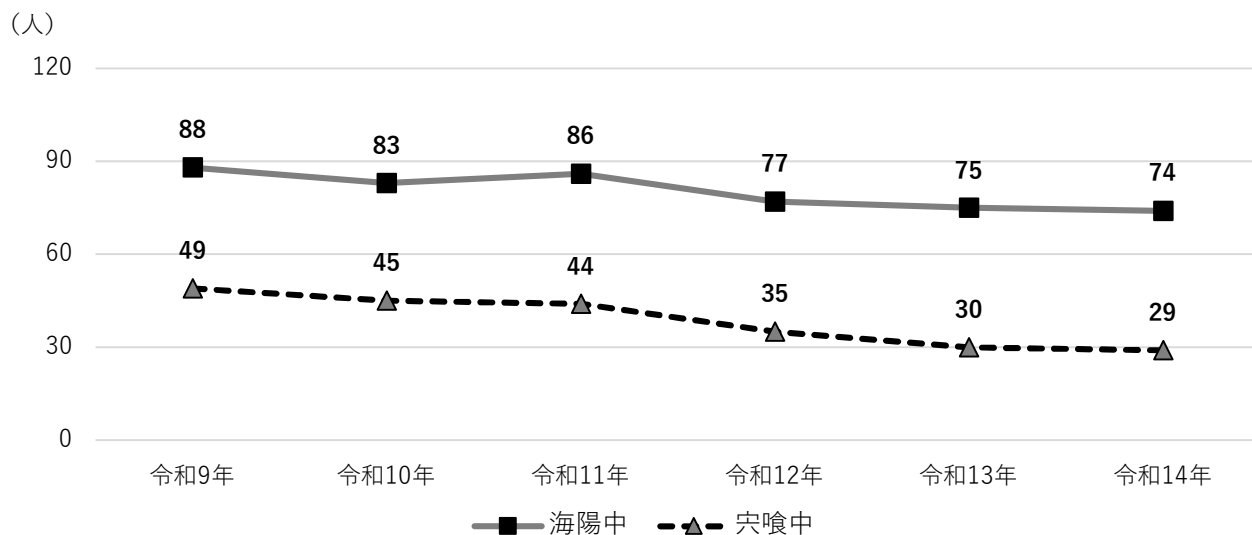
<小学校の児童、中学校の生徒数の今後の見込み>

今後の児童・生徒数の推計をみると、令和14年には小学校児童が153人、中学校生徒数が103人となる見込みです。令和9年と比較すると、小学校児童は54人、中学校生徒は24人減少することになります。学校別にみると、いずれの学校も減少傾向にあります。特に海部小、穴喰小、穴喰中は5年間で児童・生徒数が令和9年の半分近くまで減少することが想定されています。

(小学校)



(中学校)



各年5月1日時点

< 小学校の学年ごとの児童・生徒数の推移 > ※R8.5.1 時点の児童・生徒数

	学年 年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	児童総数
	令和7	18	16	23	14	24	14	109
海南小	令和8	18	18	17	23	14	25	115
	令和9	17	18	18	17	23	14	107
	令和10	21	17	18	18	17	23	114
	令和11	15	21	17	18	18	17	106
	令和12	13	15	21	17	18	18	102
	令和13	11	13	15	21	17	18	95
	令和14	10	11	13	15	21	17	87
	令和15		10	11	13	15	21	70
	令和16			10	11	13	15	49
	令和17				10	11	13	34
海部小	令和18					10	11	21
	令和19						10	10
	令和7	5	9	4	11	10	10	49
	令和8	10	5	9	3	11	10	48
	令和9	3	10	5	9	3	11	41
	令和10	4	3	10	5	9	3	34
	令和11	3	4	3	10	5	9	34
	令和12	4	3	4	3	10	5	29
	令和13	6	4	3	4	3	10	30
	令和14	5	6	4	3	4	3	25
穴喰小	令和15		5	6	4	3	4	22
	令和16			5	6	4	3	18
	令和17				5	6	4	15
	令和18					5	6	11
	令和19						5	5
	令和7	9	9	12	14	18	13	75
	令和8	11	9	8	12	14	18	72
	令和9	6	11	9	8	12	14	60
	令和10	10	6	11	9	8	12	56
	令和11	9	10	6	11	9	8	53
海南小 海部小	令和12	5	9	10	6	11	9	50
	令和13	5	5	9	10	6	11	46
	令和14	6	5	5	9	10	6	41
	令和15		6	5	5	9	10	35
	令和16			6	5	5	9	25
	令和17				6	5	5	16
	令和18					6	5	11
	令和19						6	6
	令和7	23	25	27	25	34	24	158
	令和8	28	23	26	26	25	35	163
海南小 海部小 穴喰小	令和9	20	28	23	26	26	25	148
	令和10	25	20	28	23	26	26	148
	令和11	18	25	20	28	23	26	140
	令和12	17	18	25	20	28	23	131
	令和13	17	17	18	25	20	28	125
	令和14	15	17	17	18	25	20	112
	令和15		15	17	17	18	25	92
	令和16			15	17	17	18	67
	令和17				15	17	17	49
	令和18					15	17	32
海南小 海部小 穴喰小	令和19						15	15
	令和7	32	34	39	39	52	37	233
	令和8	39	32	34	38	39	53	235
	令和9	26	39	32	34	38	39	208
	令和10	35	26	39	32	34	38	204
	令和11	27	35	26	39	32	34	193
	令和12	22	27	35	26	39	32	181
	令和13	22	22	27	35	26	39	171
	令和14	21	22	22	27	35	26	153
	令和15		21	22	22	27	35	127
海南小 海部小 穴喰小	令和16			21	22	22	27	92
	令和17				21	22	22	65
	令和18					21	22	43
	令和19						21	21

< 中学校の学年ごとの児童・生徒数の推移 > ※R8.5.1 時点の生徒数

	年度	学年	1年	2年	3年	生徒総数
海陽中	令和7		30	30	34	94
	令和8		22	30	30	82
	令和9		35	22	30	87
	令和10		25	35	22	82
	令和11		26	25	35	86
	令和12		26	26	25	77
	令和13		23	26	26	75
	令和14		28	23	26	77
	令和15		20	28	23	71
	令和16		25	20	28	73
	令和17		18	25	20	63
	令和18		17	18	25	60
	令和19		17	17	18	52
	令和20		15	17	17	49
	令和21			15	17	32
	令和22			0	15	15
央喰中	令和7		18	16	15	49
	令和8		12	17	16	45
	令和9		18	12	17	47
	令和10		14	18	12	44
	令和11		12	14	18	44
	令和12		8	12	14	34
	令和13		9	8	12	29
	令和14		11	9	8	28
	令和15		6	11	9	26
	令和16		10	6	11	27
	令和17		9	10	6	25
	令和18		5	9	10	24
	令和19		5	5	9	19
	令和20		6	5	5	16
	令和21			6	5	11
	令和22			0	6	6
海陽中 央喰中	年度	学年	1年	2年	3年	生徒総数
	令和7		48	46	49	143
	令和8		34	47	46	127
	令和9		53	34	47	134
	令和10		39	53	34	126
	令和11		38	39	53	130
	令和12		34	38	39	111
	令和13		32	34	38	104
	令和14		39	32	34	105
	令和15		26	39	32	97
	令和16		35	26	39	100
	令和17		27	35	26	88
	令和18		22	27	35	84
	令和19		22	22	27	71
	令和20		21	22	22	65
令和21			21	22	43	
令和22				21	21	

④児童・生徒数の減少について

児童・生徒数の減少は、学校運営や児童・生徒の学習環境に影響を及ぼします。1つの学年の児童・生徒数が減少し、かつ、1クラスの人数が県基準の人数を下回ると複式学級となり、2つの学年が同じ教室で授業を受けることになります。

複式学級となると、以下のような課題、児童・生徒への影響が生じます。

(課題)

- ・クラスの枠組みを活用した活動ができないことで、集団の中で多様な意見に触れる機会の減少、集団の中で切磋琢磨する機会が減少します。
- ・クラブ活動、学校行事の種類が限定され、教育効果が減少します。
- ・加配の教員が配置されなくなり、教員一人当たりの仕事量が増え、他の教員の支援体制も構築しにくいことが発生します。
- ・異なる学年と一緒に授業を受けることにより、指導技術、指導準備などで、教員の負担がさらに増えます。
- ・授業環境により、一部の活動に制限が生じることがあります。

(児童・生徒への影響)

- ・社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。
- ・進学の際、大きな集団への適応に苦労する可能性がある。
- ・協働的な学びの実現が困難であること。
- ・切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。
- ・教員それぞれの専門性を生かした教育が受けにくい。
- ・多様な視点、考えに触れることが難しい。

II 海陽町の教育について

第4期海陽町教育振興基本計画では、次のような特徴ある教育の推進が挙げられます。

基本理念	つながる ひろがる 未来へ活かす 学びのフィールド海陽町
------	------------------------------

①グローバル教育

海陽町では、中学校を卒業する時期には全員が簡単な英会話ができる状態をめざして、英語教育（グローバル教育）に取り組んでいます。

こども園でのイメージ保育や、小学校へのオールイングリッシュ授業の導入、地域資源を題材とした英語での発表の機会などを通し、子どもの英語力やコミュニケーション能力、多様性を尊重した協働力、自発的な探求力を高め、多様な価値観を持った人々との相互理解や協働ができるグローバル人材を育成しています。

令和7年度に教育振興計画の策定にあたって保護者を対象に実施したアンケートでは、町の学校教育で今後力を入れる必要があることとして、「英語教育（グローバル教育）」が55.4%で最多回答となっており、保護者の関心が強い取組であることがうかがえます。

また、グローバルな視点を持ちながら自らの地域を見つめなおし、地域社会に貢献できる人材を育成するグローバル教育も実施しています。令和5年度より町内の中学校の総合的な学習の時間に「グローバル」コースを設けており、町内在住の外国人に対するインタビューや地域の自然・文化などの魅力の英語での発信などの活動を行い、グローバル人材に求められる能力を高めるとともに、活動を通じたシビックプライドの醸成もねらっています。



ネイティブスタッフによる授業

②ICT教育

海陽町では、一人一台端末などICT環境の整備が行われています。これら機器を活用し、児童・生徒の教育の質と機会の向上を推進しています。

オンラインでの英語授業や交流、英語を用いたVlog形式での地域資源の発信など、ICT機器はグローバル（グローバル）教育においても活用されています。

令和7年度実施の保護者アンケートでは、町の学校教育で今後力を入れる必要があることとして、「ICT環境を活かした授業」は38.4%となっており、4割近くの保護者が重要視しています。



オンライン英会話授業

III 再編統合の進め方について

海陽町学校再編基本計画では、学校の再編統合にあたっては、海陽町の教育における特徴を継承することが重要としています。

海陽町の学校の再編統合については、児童の通学距離、統合した場合の学校規模を考え、海部小学校と海南小学校を統合し、海陽中学校区を1つの小・中学校へ編制し、穴喰小学校と穴喰中学校はそのまま穴喰中学校区とすることが適切であると考えます。両中学校区において、チェーンスクール方式を継続あるいは導入する等の方策を立て小中一貫教育を推進していく体制が望ましいと考えます。

統合する学校の位置については、海南及び海部地域は、学校の敷地の広さや活用できる教室数などの規模を想定すると海南小学校の位置で統合が望ましいと考えます。

さらに、小・中学校ともに複式学級が発生しないようにすることに加え、規模の拡大により中学校での部活動など子どもの学習における選択の幅を広げることなどから、1校1校体制への移行も重要です。1校1校体制へ移行する際には、津波等の自然災害に対する安全性の配慮を十分踏まえるものとし、学校の位置を高台へ新設する等やパッケージデザインの検討を行う事が望ましいと考えます。

■海陽町学校のあり方検討について

・令和8年度 海陽町学校再編統合スケジュール

	令和6 2024	令和7 2025	令和8 2026	令和9 2027	令和10 2028	令和11 2029	令和12 2030	令和13 2031	令和14 2032	令和15 2033	令和16 2034
教育振興計画 海陽町	現行 第3期計画	～令和7年度	次期 第4期計画	令和8年度～令和12年度							
再編基本計画	学校再編基本計画期間（令和6年度～令和15年度）										
	2校2校体制 1校1校体制										
再編統合の目標 小学校	住民説明会 準備検討委員会立ち上げ (案) 海部小・海南小統合 スタート 2校2校体制スタート 小学校跡地利用検討委員会の立ち上げ										
海陽町 学校のあり方検討 委員会	学校のあり方検討 委員会	計画策定 委員会	学校のあり方検討 委員会								

IV 再編統合に伴う準備事項について

学校の再編統合にあたって、統合した学校の「校名」「校歌」「校章」「制服」「スクールバスなどの通学体制」などの決定方針や統合予定の学校同士での児童生徒の交流事業、統合に伴う閉校関連事業などについて検討する必要があります。これらの検討にあたって、各学校のPTA、地域住民、学校関係者などからなる「学校再編準備委員会（仮称）」を設置します。

○学校運営への配慮

- ・再編実施前の一定期間には各学校間での交流事業等を行う
- ・特別な支援を要する児童生徒に対しては、個別の教育支援計画等を確実に引き継ぐ
- ・新たな学校生活への円滑な移行が行えるよう児童生徒へ支援について検討する
- ・教職員や保護者等の戸惑いや不安を把握する
- ・各学校のコミュニティ・スクール、放課後こども教室の運営を話し合う

○海南小学校・海部小学校再編準備委員会（仮称）>

○委員	学校関係者（海南小、海部小）の校長・教頭 海陽中学校の校長 保護者代表 住民代表者 教育委員会
○協議事項	校名、校歌、校旗、校訓・校則、PTA 会則、制服・体操服、閉校式、記念誌の発行等

別組織として、「海部小学校跡活用検討委員会（仮称）の立ち上げ」を進めます。

海南小・海部小再編スケジュール案

海南小・海部小再編スケジュール案												
【令和8年度】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校のあり方検討委員会				○ 第1回 7/6		○ 第2回 8/24						
住民説明会	大嶺地区 7/13	海部地区 7/14	海南地区 7/15	○								
学校再編準備委員会(仮称)						第1回 委員長等選出等		第2回		第3回		
①校名・校歌関係								検討期間				
②通学関係								検討期間				
③地域・PTA関係								検討期間				
④学校教育関係								交流授業等検討期間				
⑤式典関係								検討期間 準備: 記念誌など				
学校跡活用検討委員会(仮称)											委員会設置準備期間	
【令和9年度】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
住民説明会						海部地区・海南地区						
学校再編準備委員会(仮称)		第1回		第2回		第3回		第4回		第5回		第6回
①校名・校歌関係						準備・校歌作詞作曲など						
②通学関係				検討期間					住民説明会後通学計画確定			
③地域・PTA関係				検討期間					住民説明会後再検討		PTA解散→新組織へ移行	
④学校教育関係						交流授業など						
⑤式典関係									準備・閉校式・開校式・行事など			
学校跡活用検討委員会(仮称)												

以下、再編統合にあたっての決定事項・スケジュール感の参考資料として、平成 21 年度に実施された海南中学校と海部中学校の統合検討委員会および、旧海南町の三小学校の統合検討委員会、平成 22 年度に実施された小中学校統合執行委員会で審議された内容を掲載します。

<海南中学校・海部中学校統合に係る検討委員会>

○委員	住民代表者 2 名、学校関係者 8 名（統合する二中学校（海南中、海部中）の校長・教頭、統合する二校の校区の小学校長（浅川小、海南小、川上小、海部小）、保護者代表 6 名（関係する小中学校の PTA の代表者）、教育委員会関係 4 名
○協議事項	第 1 回（6 月 30 日） 校名について（協議結果：各小・中学校、PTA に持ち帰り再度協議）
	第 2 回（8 月 5 日） 校名について（協議結果：「海部」「海南」「海陽」のどれにするか次回協議）
	第 3 回（9 月 4 日） 校名について（協議結果：委員全員の無記名投票により「海陽中学校」に決定）
	第 4 回（10 月 30 日） 校歌について（協議結果：作詞・作曲は専門家に依頼する、人選や交渉は教育委員会が実施する）
	第 5 回（12 月 7 日） ①校章について（協議結果：海南中の校章を継承する。） ②校旗について（協議結果：海南中の校旗を継承する（「海南中学校」と刺繍された部分は「海陽中学校」と織り直す）
	第 6 回（2 月 16 日） ①閉校式について ②記念誌の発行について ③制服・体操服について

